

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 3 月 23 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463397

研究課題名(和文) 終末期慢性呼吸器疾患患者への患者アウトカム評価を含む相互作用看護実践モデルの作成

研究課題名(英文) Development of end-of-life care nursing model, including evaluation of patient's outcome, and interaction between nurse and patient with chronic respiratory disease

研究代表者

高橋 良幸 (Takahashi, Yoshiyuki)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：30400815

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、終末期慢性呼吸器疾患患者への患者アウトカム評価を含む相互作用看護実践モデルの作成を目的としている。患者アウトカムの評価指標として「互いの了解」の評価を導き出した。患者アウトカム評価はリフレクションのサイクルを活用し、短期的患者アウトカムの評価と長期的患者アウトカムの評価を継続してすり合わせていくことで可能である。モデルはウィーデンバックの一致・不一致の原理、忍耐、自己拡張を理論的基盤に置き、看護師が常に自己の実践を評価・修正することで目標達成が可能である。患者と看護師の相互作用には、前提として呼吸苦緩和の技術および看護の意図が看護師に求められる。今後、モデルの検証が必要である。

研究成果の概要(英文)：This research aimed the development of end-of-life care nursing model, including evaluation of patient's outcome, and interaction between nurse and patient with chronic respiratory disease. The items of "mutual agreement" were extracted from the date in order to evaluate patient's outcomes. We can evaluate the patient's outcome from reconciling immediate evaluation and long-period evaluation using reflective cycle. This model is based on nursing theory of Wiedenbach. Nursing goal were accomplished continues evaluation and optimization of care. Model demands nurses to have nursing intendment and skills to mitigate respiratory discomfort. Progress research to validate this model is expected in the future.

研究分野：終末期ケア

キーワード：慢性呼吸器疾患 終末期 対人援助 互いの了解 看護 リフレクション

1. 研究開始当初の背景

慢性呼吸器疾患は世界的に増加しており、日本では3大疾患の治療の進展に伴い2020年までには死亡原因の第3位になると推定されている。終末期のケアはガンの患者に主として発展してきており、ガン以外の慢性疾患の終末期ケアは現在発展途中である(Habraken, 2007)。慢性呼吸器疾患は、ガン疾患とは異なり、悪化と回復を繰り返しながら徐々に悪化していき、呼吸器の障害により酸素不足に陥り、身の回りのことが徐々にできなくなる疾患である(EK, 2008)。そのQOLは低いことが指摘されている(Elkington, 2005)。そして、慢性呼吸器疾患患者の終末期のニーズは、症状やQOLやケアの満足について患者から表現されにくく、ケア提供者が尋ねてはじめて表出されるものが多い(Habraken, 2007)。このことは、患者は潜在的なニーズを多く持つということである(Spathis, 2011; Hasson, 2009)。これらのニーズを満たすためには、ケア提供者がニーズを知覚・察知しケアを提供していく相互作用が重要である。

これらのことから、慢性呼吸器疾患患者は他者の支援によって大きくそのQOLは左右され、QOLの向上に向けては、相互に関与し合いながら行うケアの展開・発展が必要であり、そのような革新的アプローチの探究が求められていると言える(Skilbeck, 2005)。

しかし、患者からのフィードバックの少ないこの終末期ケアにおいては、看護実践の中に、患者に何がもたらされたか、それは患者にとって良かったのかを評価しながら実践する仕組みを組み入れる必要があると考えられる。そこで、本研究では、筆者の先行研究「慢性呼吸器疾患患者のエンド・オブ・ライフ・ケアの臨床知」(文部科学省科学研究費補助金、若手研究(B)、高橋良幸、平成21年度～平成23年度)で明らかにした患者・家族・看護師の相互作用から、相互作用を展開する看護実践を抽出し、さらにそこに相互作用の中で患者アウトカムを評価することを組み入れた「終末期にある慢性呼吸器疾患患者との患者アウトカムを評価しながら展開する相互作用看護実践モデル」を作成することを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、終末期慢性呼吸器疾患患者への患者アウトカム評価を含む相互作用看護実践モデルを作成することである。

用語の定義：

終末期：治療による回復が難しく、患者もしくは看護師が患者の終末を見越して何らかの行為や思考を始めたころから、やがて患者が死を迎え、患者を取り巻いていた家族や関係者との関係が集結するまでの期間

慢性呼吸器疾患：慢性呼吸器疾患とは、非がん、非感染性で、慢性的な経過をたどり、

その終末において呼吸困難感を主とした症状を呈する呼吸器疾患とする

3. 研究の方法

以下の研究1～3より構成した。

研究1：筆者の先行研究より、終末期にある慢性呼吸器疾患患者との相互作用を発展・展開させる看護実践を抽出し指標とする〔看護実践評価指標〕。

研究2：終末期にある慢性呼吸器疾患患者との相互作用における患者アウトカムの評価枠組みを作成するために、研究1で明らかになった看護実践指標を終末期にある慢性呼吸器疾患患者へ研究者および臨床看護師が看護実践を行いながら用いて、患者アウトカムの評価枠組みとして、評価内容、必要構成要素、構成要素間関連、前提を明らかにする。

研究3：研究1および研究2の成果から「終末期にある慢性呼吸器疾患患者との患者アウトカムを評価しながら展開する相互作用看護実践モデル」を作成する。

(1) 研究1の研究手法

相互作用を発展させるには、看護師-患者間の合意形成が焦点になることが文献検討より分かった。そこで、合意形成を評価する視点として看護師と患者間、看護師と介護者間の「互いの了解」を評価する指標を看護実践評価指標とする。

「互いの了解」の評価指標は、先行研究で得られた、関東圏に在住する慢性呼吸器疾患患者の終末期ケアを日頃行っている熟練看護師7名から収集した看護実践についてのインタビューをデータとする。分析は、看護師と患者間、看護師と介護者間の関わりで、互いの了解が発生しつつ進められた看護プロセスと互いの了解が生じていない中で進められたプロセスを要約し、それらを似ているものでグルーピングし、グループに、互いの了解を評価するにはどのような視点が適切かという観点から、互いの了解を要約し、さらにそれらをグルーピングし、互いの了解の評価指標を命名する。

(2) 研究2の研究手法

患者アウトカムをモデルに組み入れる方法として、リフレクションのサイクルに着目する。理由は、看護師と患者・介護者の間に生じる相互作用は1回切りのもので、二度と同じ事象は生じ得ないことから、いくら援助を評価しても、次の実践で生かせるわけではないことから、固定的な実践方法ではなく、看護師の実践力を高めていく構造が必要と考えたからである。そして研究前提として患者アウトカムは、終末期の場合、身体状況の変化によって刻々と変わり得ることと、good deathなどの目指すべき方向性があるが、それらのうち何が本人にとって重要かは最終的に分からない、むしろ本研究の大前提としている患者がどうありたいかは、相互作用を通して評価しながら発展的に見出されるべ

きであるという立場をとることにする。

以上のことから、まず本研究の特徴でもある「互いの了解」を評価しながら実践を修正し進めることとはどういうことか理解するために、臨床で終末期の慢性呼吸器疾患患者にケアを行う中堅の看護師に「互いの了解」を評価しながら看護実践を評価・修正する実践をしてもらう。看護実践を評価する指標は研究1で得ているが、看護実践を修正するためには、看護実践例が必要と考え、研究1のデータより、熟練看護師の対人援助方法を抽出してから行う。

(3) 研究3の研究手法

研究2で行った中堅看護師の看護実践プロセスから、「終末期慢性呼吸器疾患患者への患者アウトカム評価を含む相互作用看護実践モデル」を作成する。

4. 研究成果

(1) 研究1の成果

看護実践評価指標として「互いの了解」の評価指標が得られた。項目は16項目得られた。項目は 出会った時に声をかけたか、求めに直接応じたか、求めに対して間接的に応じたか、通じ合い打ち解けたか、拒否はなかったか、言語的了解を得たか、同意可能な妥協点をつくったか、プロセスの中で抵抗はなかったか、プロセスの中で脅威にならなかったか、隠れた本音を理解する態度を示したか、違和感に応答したか、求めや思いによりそった態度を示したか、考え気持ちに同調したか、善意ある声かけであったか、善意ある情報提供であったか、過ちは許されたか、である(高橋,2017)。

(2) 研究2の成果

対人援助方法は、6局面35項目得られた。局面は、【患者の呼吸苦と日常生活に対応する局面：患者にとっての安楽について呼吸・日常生活の面から可能な限り工夫を重ねる】、【患者のケアの方向性が見出せない局面：呼吸困難感に注意しつつ、患者と直接対話しながら患者のありたい姿の推察を重ねる】、【患者が孤立しそうな局面：看護師として全力で応じ、意味のある時間を共有する】、【介護者の患者ケア参画の局面：介護者の患者への理解とケアを支持・支援し、介護者が患者に関われるようにする】、【患者・介護者の間の埋められていない溝がある局面：患者・介護者に互いの気持ちを客観的に伝え、妥協点を見つける】、【患者と介護者および看護師の共同の局面：患者・介護者にまだできることを提案し、日常が少しでも希望が感じられるように共同試行・共同開拓する】として表された。研究1で得られた「互いの了解」の評価指標および対人援助方法を含んだ「実践ガイド」を作成し、5名の看護師にそれぞれ1名の終末期患者の看護に用いてもらった。結果、看護師が「互いの了解」で評価をしながら援助を修正するには、「互いの了解」による評価、継続、援助の拡

張が必要であることが分かった。これらはウィーデンバックの一致・不一致の原理、忍耐、自己拡張と同等であった。また、看護師には看護の意図、意図的な振り返り、評価の繰り返しが必要条件であった。また、前提には看護師には呼吸苦緩和の技術が必要であった。

(3) 研究3の成果

研究2の結果から、終末期慢性呼吸器疾患患者への患者アウトカム評価を含む相互作用看護実践モデルを作成した。(図1)

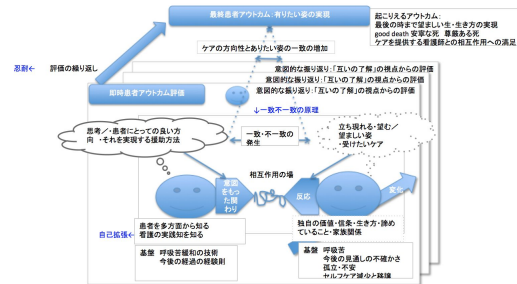


図1 終末期慢性呼吸器疾患患者への患者アウトカム評価を含む相互作用看護実践モデル

モデルの患者アウトカム評価は、その時々生じている即時患者アウトカムを継続して評価することで変化しうる患者の身体・心理に適切なケアとなるように調整が可能となり結果最終アウトカムとしてのgood deathや安寧や望ましい生の実現につながるモデルとして位置づけた。

モデルは、看護師の実践を通して得られた結果である。患者アウトカムは一つの視点ではなく、目の前にいる患者がケアに対してどう反応しているかから分かる評価点と、最終的なゴールにどれだけ近づけたかの評価点の二つの視点でみることが患者アウトカム評価を看護実践の中に位置づけるために重要となった。つまり看護師は、その患者にとって何が最良かという長期的視点と、今のケアの方向性は目の前の患者にとって最良かという短期的視点を持ちながらそれらをすり合わせながら行う看護実践モデルと言える。

従来、看護師にとって看護診断にもちいられるような目標は、曖昧で変化に対応できず終末期の場では目標を具体化・具現化しにくかった。終末期の患者視点にたった時の看護目標の立案は患者の意向をすり合わせていく目標把握が重要であるといえる。

本研究は、数名の看護師の実践をもとに作成したモデルであり、今後はモデルの検証過程が必要である。また、慢性呼吸器疾患患者の終末期以外にも、目標を見通しにくい高齢者看護や終末期患者全般の看護への適用について今後研究発展が望まれる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[原著論文](計1件)

高橋良幸, 終末期慢性呼吸器疾患患者と看護師の互いの了解を尊重した対人援助実践ガイドの開発, 千葉看護学会会誌, 23(1), 43-52, 2017.

[学会発表](計2件)

Yoshiyuki Takahashi, Implicit end-of-life needs of patients with chronic respiratory disease and their families in the home care setting, 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2015年02月05日~2015年02月06日, Taipei, Taiwan.

Yoshiyuki Takahashi, Development of a "practical guide for interpersonal support that values mutual agreement" for patients with chronic respiratory disease and nurses providing end-of-life care, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2017年03月09日~2017年03月10日, Hong Kong.

6. 研究組織

(1)研究代表者

高橋良幸 (TAKAHASHI YOSHIYUKI)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号: 30400815

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし